

特集：アジア特集

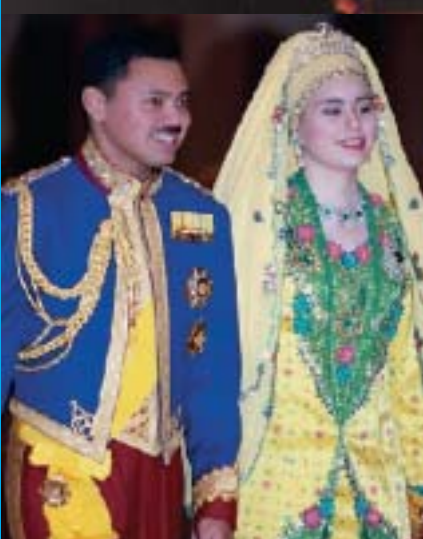
季刊紙/冬号 発行：黄麗花 所在地：東京都大田区山王1-13-14
HPアドレス <http://www.chikyuuujin.org>

A Small Kingdom in the Southern Hemisphere shined.

南半球の小さな小さな王国が光輝いた。

ブルネイ王国の皇太子の結婚式が盛大に行われた。敬意を表して王子、王女の名前をそのまま紹介しよう。<His Royal Highness the Crown Prince Pengrian Hada Haj Al-Mutadee Bielah><Dayangku Sarah binti Pengrian Salleh Abrahaman>である。この結婚式は古式豊かな伝統に乗って行われ前後2週間にわたって全世界の王族、そして各国の首長、当然のことながらブルネイの全国民が祝福した。わが国からも皇太子殿下のご臨席され直々に日本国民を代表して祝福された。ブルネイでは<アジアウェディングの年>と称し国民の大きな名誉と誇りのシンボルともなった。ところでブルネイは南半球のいうならば「東南アジアグループ」に属している。経度で直線とオーストラリアのパス、バリ、そしてブルネイの首都バンダル スリブガワン。さらに北上するとマニラ、上海と縦に並ぶことになる。ブルネイはイスラム教である。国の各市には多くのモスクがあり、ブルネイ市民の祈りの場所であると同時に国民の多くの関心と夢はイスラム教のメッカを訪ねることである。その意味からは、例えば「日本を訪問」といった「アジア志向」ではなくイスラムとしての禁酒、禁煙のつましい生活を送っている。しかし国家そのものは産油国であり、国民に納税の義務はなくまた医療はすべて無料である。王女の母方の先祖はスイス人であり、ファンタジックに表現すれば北斗七星と南十字星がこの小さな平和な国で光り輝き、南半球と北半球の人間の「平和の結婚」であったと言える。

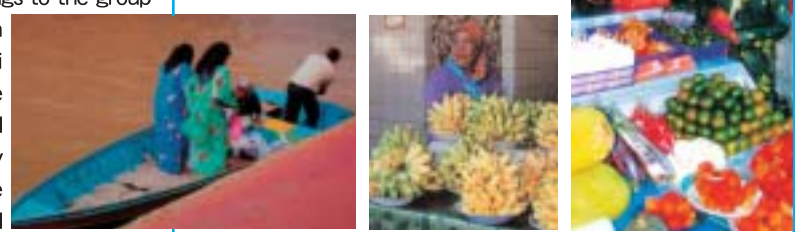
A grand wedding ceremony was held for Brunei's Crown Prince. The bridegroom and bride are His Royal Highness the Crown Prince Pengrian Hada Haj Al-mutadee Bielah and Dayangku Sara binti Pengrian Salleh Abrahaman. Through



ブルネイ王国

two weeks, the wedding was held in the great tradition with blessings by the presence of the royal families and heads of state of the world, not to mention, by the people of Brunei. From Japan, too, the Crown Prince attended, representing the blessings of the people of Japan. In Brunei, the event was memorialized as The Wedding of Asian Year and symbolized the honor and pride of the people of Brunei. Brunei belongs to the group of nations in the Southern Hemisphere. On the same Longitude, Perth in Australia, Bali and Bandar Seri Begawan in Brunei, are aligned further north with Manila and Shanghai. Brunei is an Islamic nation. Many Mosques, the places for pious prayers, are found in the cities. The greatest desire and

dream of the people is to visit the Holy Place of Mecca. People in Brunei live an ascetic life of no smoking and no alcohol. Brunei is an oil producing nation, whose people are free from taxation, and everyone receives medical care at no cost. It was a Wedding of Peace. As the ancestor of The Crown Princess・mother was a Swiss, the people of the Northern Hemisphere as well as those of the Southern Hemisphere are thereby united in this kingdom of peace, as if the Great Bear and the Southern Cross had flashed.



A message from Mr Pengiran Yosofu, the funding father of Brunei.

"I seek Love and Peace on all the countries. We need to respect what we believe. Christians, Muslims and Buddhists loathe slaying All people are family, brother and sister. I think that political people should not take initiative."



ペンギラン・ヨソフ氏

建国の父、ペンギラン・ヨソフ氏からのメッセージ

「どこの国であっても愛と平和を願っています。宗教がいかなるものであっても、お互いの信じるものを尊重しあわなければならないと思います。キリスト教徒も仏教徒も、イスラム教徒も人を殺すことが嫌い。全ての人間は家族であり兄弟。上に立つ人間が主導権を握ろうとしてはいけないと思います。」

ブルネイ王国は1984年2月23日にイギリスから独立してから、来年で21年目を迎える。ブルネイ王国を訪れると誰もがその国の平和な時の流れに目をみはる。犯罪がないのだ。人の物を盗む必要の無い生活水準の高い国である。世界の国々が抱える大きな問題の一つに「犯罪」が挙げられるが、ブルネイ王国がすでにその問題を克服している秘密はどこにあるのだろうか。「石油、ガス」等の天然資源に恵まれているということ。そしてイスラム教という宗教国家であること。さらに付け加えるとすれば「建国の歴史」の中に秘密があるのではないかと。ブルネイ王国はイギリスの侵略によって統治国になったのではなく、国の安定を願った時の為政者が、自らイギリスに統治を委ねた経緯によるという。国家元首が人間の我欲を克服した、21世紀のモデル国家なのではないか。ブルネイの国王が国民の絶大な信頼と敬愛を受けていることに注目したい。

2004年11月3日、ブルネイ王国の王族専用ボロクラブにおいてブルネイ王国初代首相であり、駐日大使でもあったペンギラン・ヨソフ氏へのインタビューが許された。南方留学生として広島大学へ留学した時、被爆した経験をもつペンギラン・ヨソフ氏は日本とブルネイの関係を結ぶ最も重要な人物である。熱心なイスラム教徒でありながら

も、他宗教を尊重する広い心を持つ静かなる巨人は切実な思いで世界の平和を求めていた。

Brunei became independent from England on 23rd, Feb 1984 and since has remained so for the past 21 years. Everyone who visits Brunei is surprised by the calmness and peace of the country. There are very few crimes committed; though there is also not a lot of necessity to "steal" because of the high standard of living that is common throughout the country. Almost all countries have problems with crime as serious topics, but Brunei does not due to a largely Muslim population and the large economy from natural resource like gas and oil. Brunei has a secret in the founding history of its countries peace. Brunei was not governed by England due to invention, instead its politicians entrusted England to conduct Brunei for better stabilization of countries government.

Brunei handed over all governing power for the sake of the people's happiness and for peace in the country; "A politician can throw their power" In these cases there are secrets to improve the countries, Brunei's politicians. Brunei should be used as models of nations in 21st century of the world.

Recently I was allowed to interview Mr. Pengiran Yosofu at the royal polo club of Brunei. He was the first prime minister of Brunei and Japanese ambassador and is one of the most important people connecting Japan and Brunei. During his years as an exchange student at the University of Hiroshima, Mr. Yosofu became one of the many victims of the atomic bombing of the city. He is a devout Muslim, though he also has much respect other religions with a warm and tolerant heart. Mr. Yosofu is a tycoon who truly seeks peace in this world.

日韓女性親善協会 「海女のリャンさん」上映会 憲政記念館



森山真弓会長

憲政記念館において日韓女性親善協会主催の「海女のリャンさん」上映会が開催された。

第2回文化庁映画賞文化記録映画大賞を受賞した作品となった「海女のリャンさん」。この映画は在日コリアン一世のリャン・イーホンさんの人生を記録した映画だ。同じく在日コリアンを追った「ハルコ」というドキュメンタリー映画が今年の春に話題となった。この二つの映画を撮影したのは「ハルコ」さんの長男金性鶴氏である。リャンさんとハルコさんは済州島の同じ村に住んでいた友達どうして、金性鶴氏は母親の映像を撮るとともに母親の友達「リャンさん」も撮っていたのだ。「リャンさん」が潜水病にかかって担架で担がれていくシーンがある。金性鶴氏はカメラを回しているのでもちろんその場にいたわけだが、この時に「リャンさん」を助けたのは海女漁を行っていた島の人々、日本人達であったという。「『リャンさんを助けたのは島の日本人達だった』というコメントを入れてほしかった」金性鶴氏は残念そうに語った。金性鶴氏は歴史研究家の辛基秀氏に「リャンさん」の映像を無料で提供したのだが、辛基秀氏が映画の制作途上で他界され、その映像を見た日本人の原村政樹監督が「海女のリャンさん」を完成させた。在日コリアンを主人公にした映画を見てみると「日本社会の中で何故暮らしているのか歴史の事実を知って欲しい」という思いが伝わってくる。北朝鮮の拉致問題が取りざたされるたびに心を痛めている朝鮮総連の人達の事情を多くの日本人は知らない。リャンさんが北朝鮮へ行き、北で暮らす息子夫婦を訪問している様子は、同行したリャンさんの五男が撮影した映像である。家族だからこそ見せられる北に住む息子夫婦の素顔。リャンさんと韓国に住むリャンさんの娘さんが、日本に渡ってから初めて故郷の済州島を訪問する姿。北朝鮮籍のリャンさんは金大中元大統領が北朝鮮を訪問するまで、韓国に渡ることが出来なかった。「リャンさん」の人生をたどったこの記録映画を見ると何故在日コリアンが存在し、どうして家族がばらばらになって北と南と日本という3つの国に暮らすことになってしまったのか理解することができる。拉致問題以後、急速に在日コリアン社会に関心が向けられるようになったが、マスコミの取り上げ方はスキャンダルの興味本位のものが多く、総連の人々の言うに言えない歴史の事情を汲み取ることをしない。「誰が善で誰が悪か」を語るより「歴史の事実を明らかにして認識すること」。日韓女性親善協会が「海女のリャンさん」の上映会を行った意義は深い。

■■■

義援金・救済金

新潟県中越地震 災害義援金

募集中

●新潟県中越地震 災害義援金 募集中について
このたび、右記の3つの受付口座において義援金の募集を始めましたのでお知らせいたします。

【郵便局から振り込まれる場合】

- 名義 日本赤十字社新潟県中越地震災害義援金
- 口座番号 00130-1-41515
- または
- 名義 日本赤十字社新潟県支部
- 口座番号 00530-2-2000

※郵便局窓口での扱いに限り為替手数料は免除されます。受領書が必要な場合、通信欄に「受領書希望」とご記入ください。

- 募集期間
平成16年12月30日(木)迄

【銀行から振り込まれる場合】

- 義援金受入口座
みずほ銀行新橋中央支店
普通預金口座
- 名義 日本赤十字社本社
新潟県中越地震災害義援金
- 口座番号 1954126

※みずほ銀行窓口、ATMから振り込まれる場合は、振込み手数料は無料です。
※受領書が必要な場合、振込み者名、受領書の宛先名、送付先住所、電話番号、振込金額、振込月日、振込先口座名をご記入の上、info@jrc.or.jp にメールをお送りください。

宇宙は祭りだ!

和歌山から世界へ平和の祈りコンサート開催
「紀伊山地の霊場と参詣道」世界遺産登録記念



11月13日、和歌山県和歌の浦アートキューブにおいて平和の祈りコンサートが開催された。出演は無形文化財に指定されている能楽大鼓奏者大倉正之助氏、シンセサイザー奏者の松尾泰伸氏、密教声明隊、演歌歌手ゆかしと愉快的仲間たち、チベットの高僧ザョゼ・リンポチュエ。主催、企画はスティルネス。スティルネスとは「やすらぎ」「心の平安」を意味するとのこと。いったいどのようにジョイントするのか、どうしてこのようなまったく違う世界に生きている人たちが集うことになったのか、主催者の池澤廣佳氏、松尾真理子氏にインタビューしてみた。「自分達の方で出来たのではない」「意識的に集めた出演者ではなく自然に集まってきた」「当日会場は満席となったが、1ヶ月前までまったくチケットが売れず、どうしてこれほどお客さんが来てくれたのかよくわからない」とのこと。大宇宙の大いなる意思が存在することをコンサート準備中に体験した主催者と、その感動を前代未聞のハーモニーで体験することができたコンサートだった。



スティルネス代表



大倉正之助



新橋店
●総桐材の中でゴージャスな雰囲気をお楽しみ下さい。



佐倉店
●田園風景の中にたたずむ田舎の雰囲気をお楽しみ下さい。

三井温熱株式会社

〒286-0035

千葉県成田市囀護台2-11-10

◇TEL 0476 (22) 5783

◇FAX 0476 (22) 5596

◇E-mail info@mitsui-onnetsu.co.jp

ワインのある生活

A Life with Wine

メルシャン株式会社

代表取締役会長(CEO)

鈴木 忠雄



昨年のフランスの天候が100年振りの猛暑のため、ワインの出来が100年に一度の良品質と話題になり、日本でも2003年産のボージョレ・ヌヴォーは1日で完売してしまったことは記憶に新しいところです。最近ではボージョレ・ヌヴォーだけでなく多くのワインが、家庭でも気軽に飲まれるようになりました。10年程前まではワインは一部の愛好家が蓄蓄を傾けて飲んだり、高級レストランなどで飲まれて、一般家庭にまではなかなか普及していませんでした。

ワインの歴史の長いヨーロッパでは料理を食べやすく、美味しく食べる飲み物として考えられ、お酒というよりは食事の一部としての日常必需品です。したがって、ヨーロッパではワインの消費量も多く、フランスの一人当たりの消費量は日本25倍もあります。このように日常に飲まれるワインは私たちがよく知っているボルドーやブルゴーニュなどの産地が表示されたAOCワインでなく、フランスのワイン分類で一番下にランクされるテーブルワインです。一方、家族のお祝い事など、晴れの日の食事やレストランでは、最上級にランクされるAOCワインが飲まれます。また、お客を招いての食事頻繁にあり、この時も当然のことながら、上級ワインに分類されるAOCワインが供されます。

ワインはぶどうの品質で決まるため、ぶどう産地が重要で、多くのワインは産地が商品名になっています。それぞれの産地には適したぶどう品種があり、さらに同じ産地、同じ品種でも年毎の気候の差によってワインの品質に影響します。ワインのラベルには産地、品種、ヴィンテージ(ぶどう収穫年)が記載されているものが多くあります。食卓にワインが1本あれば、料理との相性だけでなく、そのワインの産地、品種、ヴィンテージなど様々な情報があり、食事中の格好の話題となります。

最近の日本家庭では、家族揃って食事する機会が少なく個食の時代と言われており、お酒も父親だけの独酌になりがちですが、ワインであれば、そのワインの話題を中心に家族団楽でゆっくりした美味しい食事ができます。最近、世界的に見直されているスロー・ライフのひとつと考えます。週末にはワインと料理を囲んで家族揃って楽しい食事をお薦めします。

また、ワインは健康にも良く、フランスでは、「飲むサラダ」と昔から言われています。これはワインがお酒の中で唯一、アルカリ食品であることに由来しています。さらに、数年前、日本でも赤ワイン中のポリフェノールが健康に良いことが報告され、赤ワインブームが起こりました。フランス人は動物性脂肪を多く摂取するのに、動物性脂肪を同じように多く取る国に比べて心臓疾患で亡くなる率が少ないことがWHOの調査で判っていました。これを解く鍵はフランス人が赤ワインを多く飲んでいるためとアメリカのテレビで「フレンチ・パラドックス(フランス人の逆説)」として放映されました。赤ワインに含まれているポリフェノールに動脈硬化や血栓症を防ぐ効果があることが解明されました。ポリフェノールはぶどうの果皮と種子に多くあり、皮と種を潰れ込んで造る赤ワインに多く含まれて、赤い色と渋みになっています。このため、赤ワインが健康に良いと、日本でもマスコミに取り上げられて、赤ワインブームになりました。

最近のフランスの研究では、毎日、赤ワインを3~4杯飲んでいる人は、飲まない人に比べてアルツハイマー症が4分の1、痴呆症では5分の1の発症率という結果があります。また、発ガンを強く抑制する「リスベラトロール」という物質が赤ワインに含まれていることが報告されています。

このような赤ワインの効力は適度の飲酒で効果があり、飲みすぎは逆に効果がマイナスになります。適量の赤ワインの飲酒を続けていけば、楽しい食事に加えて健康にも良いこととなります。是非ワインのある生活を楽しんでください。

It is still a hot topic that the heat wave in France last year produced the best vintage wines in a century and that the Beaujolais nouveau was sold out in a day in Japan. Recently not only the Beaujolais nouveau but also other varieties of wine will be consumed casually at home. Only ten years ago Japanese wine lovers exercised their best judgment in selecting the finest wines in restaurants, but wine was rarely popular at home. In Europe, which has long history of wine consumption, people consider wine a daily staple, a normal part of dinner that makes any dish more pleasant. So in Europe there is heavy per capita consumption—as much as 25 times greater in France than in Japan. The wine the French drink every day is not AOC wine featuring prestigious sources like Bordeaux or Bourgogne, but table wine that is rated the lowest of those produced. On the other hand AOC wine of the highest quality is chosen for family celebrations or special occasions and at restaurants. And when guests are invited for a meal, the best AOC wine is served. The sources are important since the quality of wine depends on the grapes used to make it. The particular grapes chosen and the weather for the year they were grown affect a wine's characteristics even for those from the same region. Many wines have labels mentioning the source, the type, and the vintage (the year the grapes were grown). A bottle of wine has a lot of information, all of which provides material for good table conversation besides enhancing the flavor of a meal. Among Japanese families it has been said recently that "solitude meals" are becoming fashionable because families hardly have time to eat together and the father drinks alone, but if wine is served, the chit chat about that wine during a fine meal can be an occasion for the family to gather together. Meals are one of the leisurely habits enjoyed all over the world. We strongly recommend that families share a nice meal together on weekends, making it a point to serve special dishes and wines. And wine is not only good for meals but also for health when consumed in moderation. Wine is often referred to as a "drinking salad" in France. This is because wine is the most alkaline of all alcoholic beverages. A few years ago, Japan experienced a boom in the consumption of red wine. It has been reported that the polyphenols in red wine are good for health. It is already well known through the researches of the World Health Organization that while the French consume a lot of animal fat, they have fewer heart attacks than people in other countries. The key is that French people drink much more, a fact publicized on television programs and referred to in the United States as the "French Paradox." It has been established that the polyphenols in red wines work to prevent arteriosclerosis and thrombosis. The polyphenols are in the bark and the seed, and red wine made with them is astringent and deep red in color. The boom in red wine consumption in Japan is partly due to publicity in the media about its healthful effects. Research in France recently demonstrated that people who drink three or four glasses of wine have a quarter the chance of suffering from dementia and a fifth the chance of suffering from Alzheimer's disease as those who don't drink wine. And it has also been reported that the resveratrol contained in red wine strongly reduces carcinogens. These strengths of red wine occur when it is consumed moderately, just as drinking too much can hurt health. Continuing to drink red wine in moderation enhances physical wellbeing and is pleasant at meals. So we hope all of you enjoy life with wine.

Christmas Party Intelligence Academy

インテリジェンス・アカデミー クリスマスパーティ

2004|12|20 月 6:00 pm 受付

■ 場 所: 新宿京王プラザホテル 43階 ■ お問い合わせ: 03-3344-0111

2004年も大詰めを迎えようとしています。この度、インテリジェンス・アカデミーはクリスマスパーティーを開催する事になりました。気忙しい年末ですが、心豊かに語り合える人と時空間を用意いたします。パネルディスカッションでは、ドールコービー 鳥羽博道社長、矢野経済研究所顧問 矢野 弾氏、山東昭子参議院議員をお招き致します。

第1部では、メルシャン株式会社 会長 鈴木 忠雄様による、「21世紀の風をよむ」をテーマにした基調講演。基調講演終了後、著名な方々とのパネルディスカッション。第2部では、歌手の国立音大卒の田中郁子、宮原ナナミさん等、多彩なゲストをお招きしています。

各界でご活躍の皆様のご出席を心よりお待ちしております。
インテリジェンス・アカデミー 会長 小川 卓也
理事長 鈴木 啓子



講師 鈴木 忠雄 氏

<鈴木 忠雄氏 公職>
日本経営者団体連盟・特別顧問
社団法人経済同友会・顧問
日本ワイナリー協会・理事長

PROGRAM (プログラム)

18:00 受付・開場
18:30 開宴 来賓ご紹介

第一部: 基調講演

19:10 鈴木 忠雄 様(メルシャン株式会社
代表取締役会長・CEO) ご入場
講 演(京王プラザ43階スターライト)
<講 師> 鈴木 忠雄
<テーマ> 「21世紀の風をよむ」
インタビュアー: 勝田 健

20:10 パネルディスカッション
【パネラー】
ドールコービー 鳥羽 博道社長、
矢野経済研究所 矢野 弾 特別顧問、
参議院議員 山東 昭子、
横浜ビール会長 栗田 守敏

第二部: 受賞式

インテリジェンス・アカデミー大賞
※43階 コメット
20:30 歌(田中 郁子、宮原 ナナミ)、
ピアノ(福田 理恵)
21:00 閉宴(予定)



For the children in Maiti Nepal Charity Concerts were hold in various parts of Japan!

「マイティー・ネパール」の子供たちへ 各地でチャリティコンサート開催！



マイティーネパール
の子供たち

Children in Nepal are being sold. It is a choice by the parents who could earn so little to live on. Desperate poverty is there. In India, there is a superstition that having sexual relation with a child could cure AIDS. The sold children from Nepal are taken to India, and are forced to prostitute. Ms. Anuradha Koirala, the former vice

minister of Nepal established "Maiti Nepal" that is an orphanage to save such children. It saves the sold children by ambushing at the country boarder between Nepal and India. Nearly 500 children have been saved and are living in the Maiti Nepal. For four days from November 10 to 13, the four towns invited the 10 children from Maiti Nepal. Mr. Kim Shin, a synthesizer player attended the 10 children together with Ms. Anuradha Koirala, and hold the charity concerts. It started in 2001 when Mr. Kim visited Nepal and gave the music present to the children. The staffs of "New Road" beauty salon in Koshigaya, Saitama prefecture also visit Nepal and offer free hair cut of children. Some children would like to become a hairdresser after they received the hair cut services. Ms. Junko Tsukahara, president of New Road, said "I hope to open a hair salon in Nepal to make the place they can work for." In October a month before the charity concert in Shikoku and Kansai area, the New Road hold the charity concert in Koshigaya city. It was a good chance for the local people in Koshigaya to know the activity by the New Road staffs who have communicated with the children with Nepal through their work. It meant the proposal of one form of what to do as a corporate citizen in 21st century. From November 14, the concerts were hold in Kansai area. The students of Kyoto Zokei University supported the concert at Seirei-in in Kyoto on November 16. The Nepalese children danced along with the music by Mr. Kim. On 17, there was the last concert named "a drop of love" hold by the Izumi Lion's Club in Izumi city, Osaka. The children and Ms. Anuradha Koirala left for Nepal after the 8-day concert tour. The late Mother Theresa visited Ms. and handed her rosary to give over her mission. Ms. Anuradha Koirala was chosen in "100 people who lived for the sake of the world", and is planning to come back to Japan for the Aichi Expo in next spring.



京都の青蓮院門跡



ネパールの子供たちが売られている。「生活することが出来ない親達が子供を売りに出す」という貧しさのゆえの選択。インドには子供と性的な関係を持つとAIDSが治るといふ迷信があり、売られた子供たちはインドに連れて行かれて売春をさせられる。ネパールの副大臣を務めていたアヌラダ・コイララ女史はそのような子供たちを救い出す為に、「マイティー・ネパール」という子供たちが暮らせる施設をつくった。ネパールとインドの国境で待ち伏せをして、売られていく子供達を救い出す。現在500名近い子供達がマイティー・ネパールで暮らしている。11月10日から13日までの4日間、四国の四つの町の招待で、10名のマイティーの子供達が来日。埼玉県越谷市在住のシンセサイザー奏者キム・シンさんはアヌラダ・コイララ女史と10名の子供たちと同行し、各地でチャリティコンサートを行った。2001年にマイティーネパールを訪れて子供たちに音楽のプレゼントを行って以来、キムさんと子供達の交流は続いている。埼玉県越谷市の美容室(有)ニュー・ロードのメンバー達も、毎年「マイティー・ネパール」を訪れて子供たちの髪の毛を無料でカットするボランティアを行っている。彼らに髪をカットされる中で、将来の仕事として美容師を目指したいと考える子供たちも現れてきており、(有)ニュー

ロードの代表取締役、塚原淳子氏は「マイティー・ネパールの子供達の為にネパールで美容室を開き、彼らが働く場を作ってあげたい」と抱負を語った。四国、関西で行われたコンサートに先駆けて10月に(有)ニュー・ロード主催のチャリティコンサートが越谷市で行われた。キム・シンさんの演奏と共にネパールで撮影したVTRも上映され、美容という仕事を通してネパールの子供達とのふれあいを続ける(有)ニュー・ロードの活動が地元の人々へ伝わる機会となった。日本社会に必要な「人間のやさしさを育てる企業づくり」。21世紀の新しい企業のあり方を提言するイベントでもあった。11月14日からは関西地域でコンサートが行われ、11月16日は京都の青蓮院門跡において、京都造形大学の学生がコンサートを準備。歴代の天皇の位牌が祭られる本堂でキムさんの演奏とネパールの子供達の踊りが披露された。11月17日の大阪府和泉市「いずみそれいゆライオンズクラブ」主催「ひとしづくの愛」コンサートを最後に、アヌラダ・コイララ女史と子供たちは8日間のコンサートツアーを終えてネパールへの帰路についた。生前マザー・テレサがコイララ女史を訪ねて、使命を託す為ロザリオを手渡したという。コイララ女史は「世界の為になる100名の人物」に選ばれ、来春の愛知博覧会に来日を予定している。



中央白い服のキム・シン氏、塚原淳子女史と共に記念撮影

 Chan Loire

シャンロワール

販売店

担当 徳山 靖子

***販売員、販売店募集**

シャンロワール製品をご紹介致します！

宇宙は祭りだ！

和歌山から世界へ平和の祈りコンサート開催 「紀伊山地の霊場と参詣道」世界遺産登録記念



11月13日、和歌山県和歌の浦アートキューブにおいて平和の祈りコンサートが開催された。出演は無形文化財に指定されている能楽大鼓奏者大倉正之助氏、シンセサイザー奏者の松尾泰伸氏、密教声明隊、演歌歌手ゆかしと愉快的仲間たち、チベットの僧侶チョゼ・リンポチェ。主催、企画はスティルネス。スティルネスとは「やすらぎ」「心の平安」を意味するとのこと。いったいどのようにジョイントするのか、どうしてこのようなまったく違う世界に生きている人たちが集うことになったのか、主催者の池澤廣佳氏、松尾真理子氏にインタビューしてみた。「自分達の力で出来たのではない」「意識的に集めた出演者ではなく自然に集まってきた」「当日会場は満席となったが、1ヶ月前までまったくチケットが売れず、どうしてこれほどお客さんが来てくれたのかよくわからない」とのこと。大宇宙の大いなる意思が存在することをコンサート準備中に体験した主催者と、その感動を前代未聞のハーモニーで体験することができたコンサートだった。



弘法大師・空海と如意尼

弘法大師・空海には女性の弟子がいる。西宮市北方の甲山にある神呪寺(かんのうじ)の開祖、真井御前(まないごぜん)がその人である。法名は如意尼。淳和天皇の第四妃として寵愛を一身に受けたが、女官たちの激しい嫉妬から逃れて出家。弘法大師から阿闍梨灌頂を受けるなど、ハイレベルな修行の段階に達した。如意尼には遷化時の奇譚がある。弘法大師は自身の遷化の時期を予言していたが、如意尼の遷化の翌日、弘法大師も遷化したというもの。如意尼は大師の住まう方角を向いて、真言を唱えながら遷化した。その翌日に弘法大師も遷化した。師資相伝の真言密教であり、灌頂を受ける阿闍梨は大日如来を代身する。師として弘法大師を非常に尊敬していたその心情が垣間見える。真井御前は八〇二年、古代以来の神官の家柄である海部直の第三十一代雄豊の子殿子として生を受けた。生地との与佐の真井原から真井御前と呼ばれる。十歳のころ都に上り、頂法寺の六角堂に入り、手芸や礼儀作法などの教養を身につける一方で、如意輪法の修行をしていた。八三年、二十歳のときに後の淳和天皇となる皇太子から見初められ、第四妃として宮中に入った。だが後宮女官たちの激しい嫉妬に遭い、女官二人を連れて二十六歳の時に宮中を出た。鳥羽から翌日船で西宮浜に着き、広田神社に一泊。翌二月二十日に甲山に山頂には紫の雲がたなびき、その中から観音が出現。ここは昔宝を埋めたところなので、ここに堂宇を建てるようにとのお告げを受けた。これが後の神呪寺である。

一緒に宮中を出た女官のうちの一人が弘法大師の姻戚者(法名・如一尼)であり、弘法大師が真言密教を確立するのに陰に陽に援助を惜しまなかったこともあってか、八二八年真井御前は弘法大師を甲山に迎え、十七日間の如意輪の秘法を修行。翌年正月には再び弘法大師を招き、受命灌頂を受けた。翌八三〇年、二月十八日、阿闍梨灌頂を受けているが、このときの灌頂は真井御前が有髪のまま受けるという、型破りのものとなった。同年三月十八日から三十三日間を掛けて弘法大師は真井御前のために仏師に如意輪通観音像を彫らせた。この観音像は神呪寺の秘仏本尊で、毎年五月十八日だけ開帳される。重文指定。八三〇年十月十八日に大殿が落慶。神呪寺と命名した。真井御前はこのとき弘法大師を招き、髪を切り、髪を三つに束ね、一つは観音像に、一つは淳和帝に、ひとつは弘法大師に渡し、弘法大師より具足戒を受け、如意と号した。如意尼二十八歳の秋であった。八三二年十一月十二日、弘法大師は体調の悪化から死期を悟り、一年半後の八百三十四年三月二十一日に入定すると予言したが、その予言が成就する前日の二十日、如意尼が三十三歳で入定。後を追うように弘法大師も予言どおりの三月二十一日入定した。このあたりの経緯が人々の口マンを掻き立てている。

くだんの如意輪観音が真井御前をモデルとしているとの説があったり、真言密教の経典の一つである理趣経が男女関係を想念させるものであったりするため、弘法大師と真井御前の関係を取りざたする向きもあるが、一緒にお供した女官のうちの一人が弘法大師の姻戚者であることから、可能性としては薄いと思われる。だが、宗教の最高の罪が淫乱の罪であるというのを考えると、これを超克する経典をもつ真言密教のレベルは相当高いと見ることができない。事実真言密教が淫乱の宗教であるというのを聞いたことがない。この宗教上の最高の罪を見据え、それを超えた経典を持つという点で、真言密教を改めて見直すに格好の話題である。

ワインのある生活

A Life with Wine

メルシャン株式会社

代表取締役会長(CEO)

鈴木 忠雄



昨年のフランスの天候が100年振りの猛暑のため、ワインの出来が100年に一度の良い品質と話題になり、日本でも2003年産のボージョレ・ヌヴォーは1日で売切れしてしまったことは記憶に新しいところです。最近ではボージョレ・ヌヴォーだけでなく多くのワインが、家庭でも気軽に飲まれるようになりました。10年程前まではワインは一部の愛好家が蘊蓄を傾けて飲んだり、高級レストランなどで飲まれて、一般家庭にまではなかなか普及していませんでした。

ワインの歴史の長いヨーロッパでは料理を食べやすく、美味しく食べる飲み物として考えられ、お酒というよりは食事の一部としての日常必需品です。したがって、ヨーロッパではワインの消費量も多く、フランスの一人当たりの消費量は日本25倍もあります。このように日常に飲まれるワインは私たちがよく知っているポルドーやブルゴーニュなどの産地が表示されたAOCワインでなく、フランスのワイン分類で一番下にランクされるテーブルワインです。一方、家族のお祝い事など、晴れの日の食事やレストランでは、最上級にランクされるAOCワインが飲まれます。また、お客を招いての食事でも頻りにあり、この時も当然のことながら、上級ワインに分類されるAOCワインが供されます。

ワインはぶどうの品質で決まるため、ぶどう産地が重要で、多くのワインは産地が商品名になっています。それぞれの産地には適したぶどう品種があり、さらに同じ産地、同じ品種でも年毎の気候の差によってワインの品質に影響します。ワインのラベルには産地、品種、ヴィンテージ(ぶどう収穫年)が記載されているものが多くあります。食卓にワインが1本あれば、料理との相性だけでなく、そのワインの産地、品種、ヴィンテージなど様々な情報があり、食事の格好の話題となります。

最近の日本家庭では、家族揃って食事する機会が少なく個食の時代と言われており、お酒も父親だけの独酌になりがちですが、ワインであれば、そのワインの話題を中心に家族団楽でゆっくりとした美味しい食事ができます。最近、世界的に見直されているスロー・ライフのひとつと考えます。週末にはワインと料理を囲んで家族揃って楽しい食事をお薦めします。

また、ワインは健康にも良くフランスでは、「飲むサラダ」と昔から言われています。これはワインがお酒の中で唯一、アルカリ食品であることに由来しています。さらに、数年前、日本でも赤ワイン中のポリフェノールが健康に良いことが報告され、赤ワインブームが起こりました。フランス人は動物性脂肪を多く摂取するのに、動物性脂肪を同じように多く取る国に比べて心臓疾患で亡くなる率が少ないことがWHOの調査で判っていました。これを解く鍵はフランス人が赤ワインを多く飲んでいるためとアメリカのテレビで「フレンチ・パラドックス(フランス人の逆説)」として放映されました。赤ワインに含まれているポリフェノールに動脈硬化や血栓症を防ぐ効果があることが解明されました。ポリフェノールはぶどうの果皮と種子に多くあり、皮と種を潰れ込んで造る赤ワインに多く含まれて、赤い色と渋みになっています。このため、赤ワインが健康に良いと、日本でもマスコミに取り上げられて、赤ワインブームになりました。

最近のフランスの研究では、毎日、赤ワインを3~4杯飲んでいる人は、飲まない人に比べてアルツハイマー症が4分の1、痴呆症では5分の1の発症率という結果があります。また、発ガンを強く抑制する「リスベラトロール」という物質が赤ワインに含まれていることが報告されています。

このような赤ワインの効力は適度の飲酒で効果があり、飲みすぎは逆に効果がマイナスになります。適量の赤ワインの飲酒を続けていけば、楽しい食事に加えて健康にも良いこととなります。是非ワインのある生活を楽しんでください。

It is still a hot topic that the heat wave in France last year produced the best vintage wines in a century and that the Beaujolais nouveau was sold out in a day in Japan. Recently not only the Beaujolais nouveau but also other varieties of wine will be consumed casually at home. Only ten years ago Japanese wine lovers exercised their best judgment in selecting the finest wines in restaurants, but wine was rarely popular at home. In Europe, which has long history of wine consumption, people consider wine a daily staple, a normal part of dinner that makes any dish more pleasant. So in Europe there is heavy per capita consumption—as much as 25 times greater in France than in Japan. The wine the French drink every day is not AOC wine featuring prestigious sources like Bordeaux or Bourgogne, but table wine that is rated the lowest of those produced. On the other hand AOC wine of the highest quality is chosen for family celebrations or special occasions and at restaurants. And when guests are invited for a meal, the best AOC wine is served. The sources are important since the quality of wine depends on the grapes used to make it. The particular grapes chosen and the weather for the year they were grown affect a wine's characteristics even for those from the same region. Many wines have labels mentioning the source, the type, and the vintage (the year the grapes were grown). A bottle of wine has a lot of information, all of which provides material for good table conversation besides enhancing the flavor of a meal. Among Japanese families it has been said recently that "solitude meals" are becoming fashionable because families hardly have time to eat together and the father drinks alone, but if wine is served, the chit chat about that wine during a fine meal can be an occasion for the family to gather together. Meals are one of the leisurely habits enjoyed all over the world. We strongly recommend that families share a nice meal together on weekends, making it a point to serve special dishes and wines. And wine is not only good for meals but also for health when consumed in moderation. Wine is often referred to as a "drinking salad" in France. This is because wine is the most alkaline of all alcoholic beverages. A few years ago, Japan experienced a boom in the consumption of red wine. It has been reported that the polyphenols in red wine are good for health. It is already well known through the researches of the World Health Organization that while the French consume a lot of animal fat, they have fewer heart attacks than people in other countries. The key is that French people drink much more, a fact publicized on television programs and referred to in the United States as the "French Paradox." It has been established that the polyphenols in red wines work to prevent arteriosclerosis and thrombosis. The polyphenols are in the bark and the seed, and red wine made with them is astringent and deep red in color. The boom in red wine consumption in Japan is partly due to publicity in the media about its healthful effects. Research in France recently demonstrated that people who drink three or four glasses of wine have a quarter the chance of suffering from dementia and a fifth the chance of suffering from Alzheimer's disease as those who don't drink wine. And it has also been reported that the resveratrol contained in red wine strongly reduces carcinogens. These strengths of red wine occur when it is consumed moderately, just as drinking too much can hurt health. Continuing to drink red wine in moderation enhances physical wellbeing and is pleasant at meals. So we hope all of you enjoy life with wine.

平成16年度

国際民俗芸能フェスティバル

ブルネイ・ダルサラームの歌と踊り(ブルネイ)
エスキモーの芸能(アメリカ合衆国アラスカ州)
アイヌの舞踊(北海道)
九十九里の唄と踊り(千葉県)

2005年 2 | 16 水

国立劇場大劇場 開演:18:00

主催/文化庁 後援/アメリカ合衆国大使館

お問い合わせ Tel&Fax 03-5742-2715 担当 福岡 090-6704-9093 (ちきゅうじん編集室)

入場
無料